2014年3月期
第2四半期(中間期)決算
補足説明資料

2013年11月6日

アニコム ホールディングス株式会社

（証券コード:8715）

1. 2014年3月期 業績見通し

2. 2014年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

1-(1). 2014年3月期 経営指標(損保単体)の修正

2014年3月期通期の経営指標(損保単体)を以下のとおり修正いたしました。

	前期実績	今回修正	前回発表
①正味損害率(W/P) (正味支払保険金+損害調査費)/正味収入保険料×100	63.7%	62.0%	61.4%
②E/I損害率 (正味支払保険金+支払備金積増額+損害調査費)/既経過保険料×100	67.5%	66.2%	64.4%
③正味事業費率 (諸手数料及び集金費+営業費及び一般管理費)/正味収入保険料×100	28.5%	28.1%	28.8%
④コンバインド・レシオ (①+③)	92.2%	90.1%	90.2%
⑤E/I損害率+正味事業費率 (②+③)	96.0%	94.3%	93.2%
単体ソルベンシー・マージン比率	281.3%	298.1%	282.1%

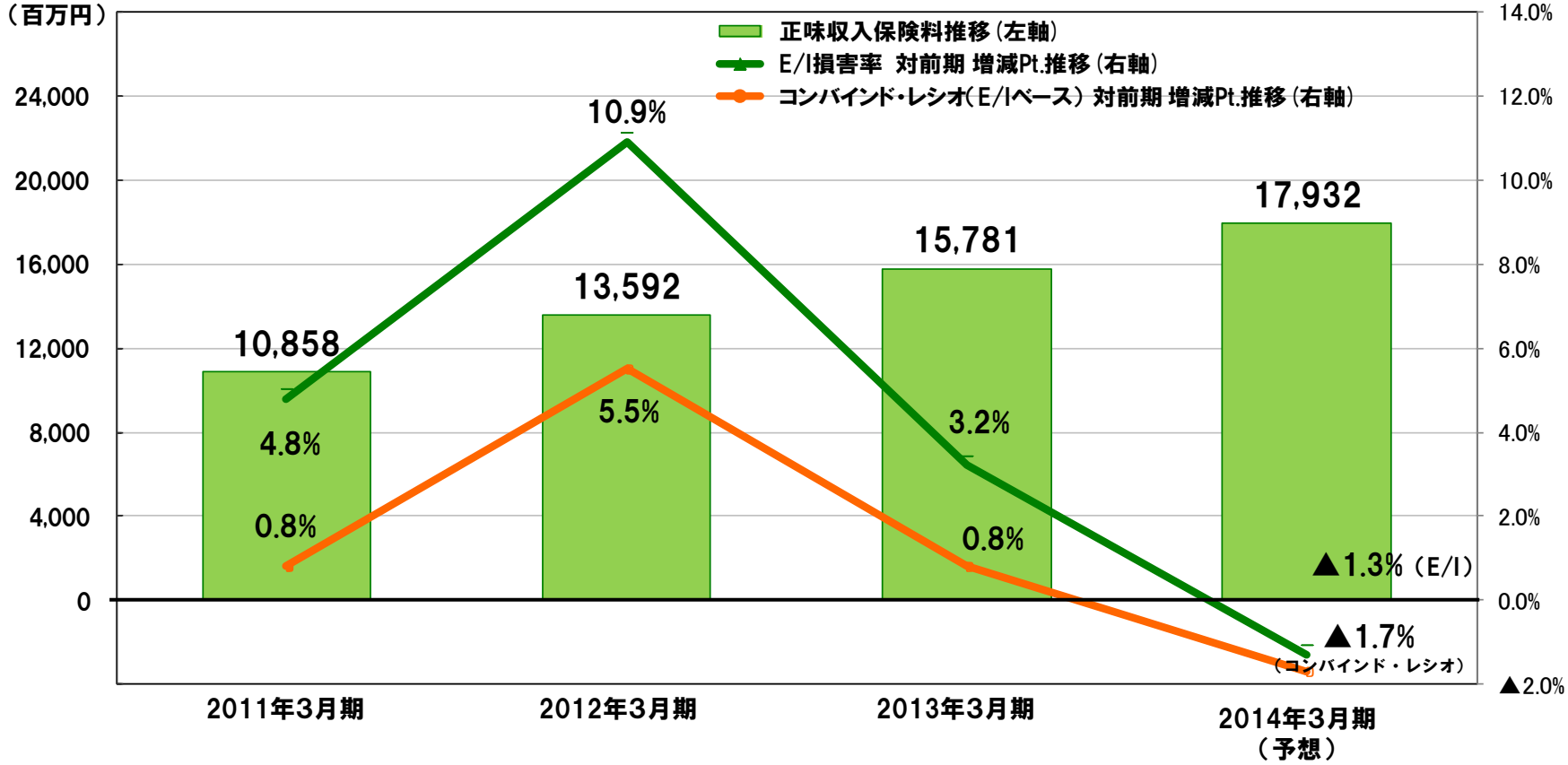
・全体的に損害率低減施策の効果が発現している結果、前期実績よりも損害率が改善する予想に変わりはないものの、一部の施策で効果の発現が遅行しているため、前回発表予想より損害率を若干上方に修正。

・アニコム損保への増資により、損保単体ソルベンシー・マージン比率は改善。

1－（2）. ペット保険に関する指標の推移

収入保険料は安定的に増加。損害率/コンバインド・レシオ(E/Iベース　注1)は低下傾向

（注1）コンバインド・レシオ(E/Iベース)：E/I損害率＋正味事業費率で算出した利益指標。
3ページの⑤に相当。



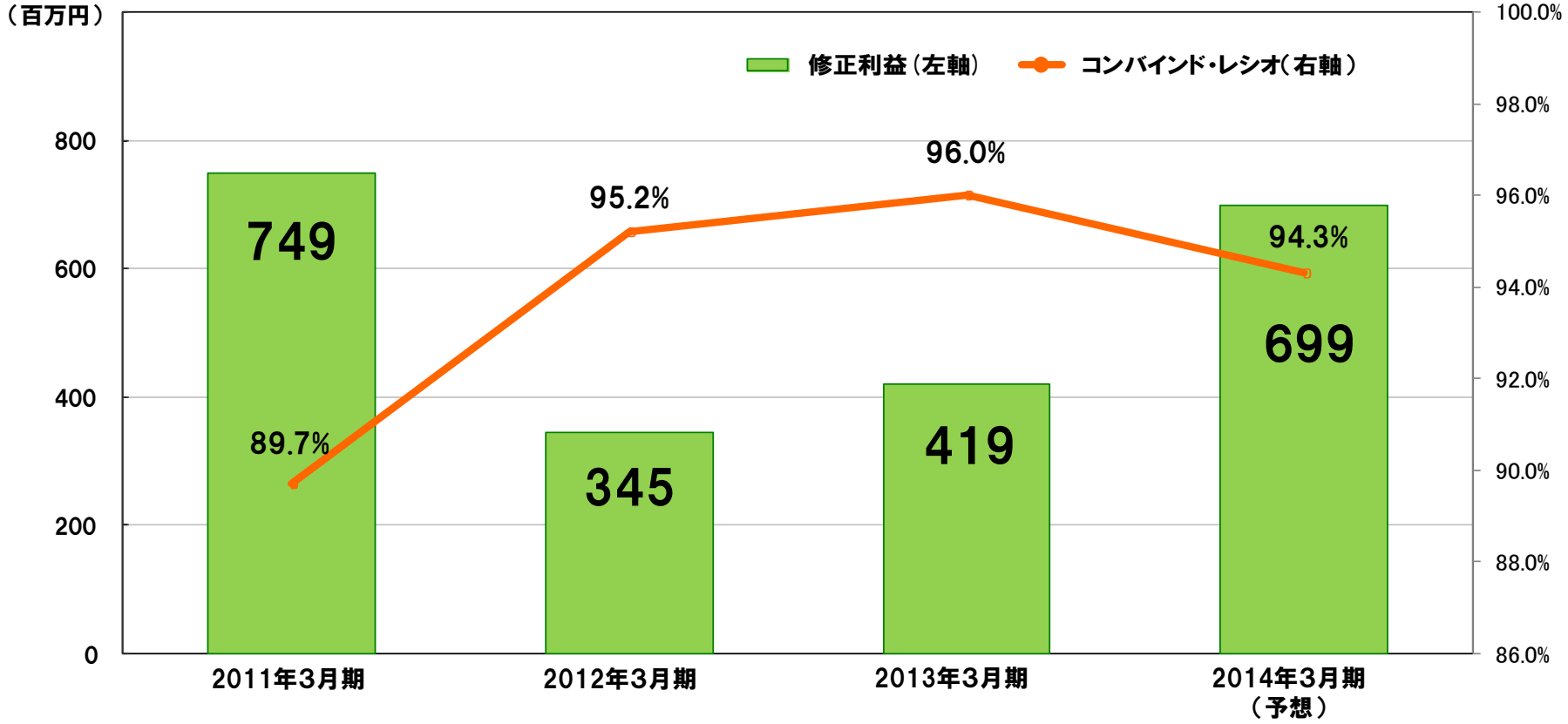
・新規契約の増加、高い継続率による継続契約の獲得により、収入保険料は右肩上がりに推移。

・損害率改善施策の効果が発現した結果、E/I損害率およびコンバインド・レシオ(E/Iベース)は対前期比での上昇に歯止めが掛かっていたが、2014年3月期においてはさらに改善が進み、それぞれ前期比でマイナスとなる見通し。

1－（3）. コンバインド・レシオ(E/Iベース)と修正利益(注2)の推移

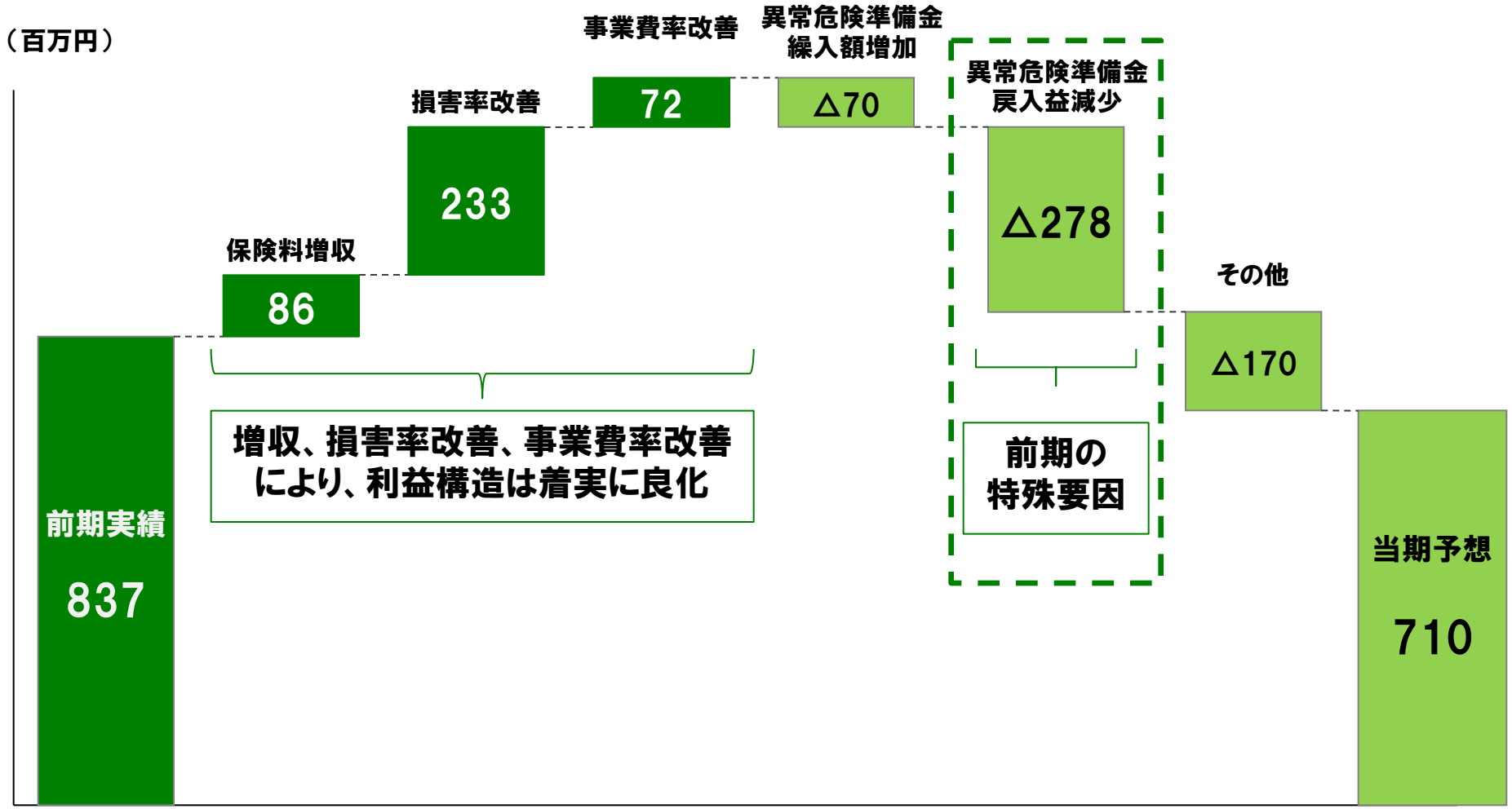
コンバインド・レシオ(E/Iベース)の改善により、修正利益は対前年比で大きく増加見込

（注2）修正利益：ペット保険引受事業による実質的な損益を表す当社グループ独自の指標。
経常利益±異常危険準備金影響額±資産運用収支±その他収支にて算出。



- 2010年10月の商品改定により損害率とコンバインド・レシオ(E/Iベース)は上昇したが、保険収益の増加に寄与。
- 2014年3月期に見込んでいるコンバインド・レシオ(E/Iベース)の改善により、修正利益は大きく増加する見込み。
- なお、2013年5月8日開示の予想に基づいた修正利益は911百万円であった。

1-(4). 当期経常利益の構成内容



・保険料収入の増加に加え、損害率・事業費率ともに改善し、利益構造は良化。

・前期は、損保開業以来計上していた異常危険準備金を全額取り崩したため783百万円が利益計上されたが、当期は、前期繰入分の505百万円のみが利益計上されるため、前期比で利益を押し下げる特殊要因となった。

1-(5). 2014年3月期通期業績予想の修正（2013年11月6日公表）

	経常収益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	
前回発表予想（2013年5月8日）	18,136	1,010	637	37円12銭
今回修正予想（2013年11月6日）	18,216	710	443	25円70銭
増減額	80	△300	△193	―
増減率	0.4%	△29.7%	△30.4%	―
（参考）前期2013年3月期実績	16,186	837	640	38円07銭

【参考】その他経営指標の修正

	保有契約数	新規契約数	平均継続率	対応動物病院数
前回発表予想	505,602件	114,000件	88.5%	5,591病院
今回修正予想	505,020件	109,679件	89.0%	5,591病院

1-(6). 収益力向上/損害率改善に向けた取り組み

損害率の適正化に向けた様々な取り組みによる効果が発現している結果、2014年3月期第2四半期から、損害率は対前年同期比で改善傾向に転じております。

今後もより一層損害率の適正化を図る施策を実施するとともに、ペット保険事業およびその他収益力の向上を図ります。

損害率改善の主な施策	○補償割合90%プランの販売停止	2013年 7月末 完了
	○継続契約における補償割合引き上げの引受審査強化 （50%プラン ⇒ 70%プラン）	2013年 8月～ 実施
	○オンライン契約の待機期間強化（14日後 ⇒ 1ヶ月後）	2013年10月～ 実施
	○販売チャネル別の損害率に応じたリソースの分配	継続実施
収益力向上の主な施策	○富士通との協業によるクラウド版電子カルテ事業開始	2013年11月 販売開始

1. 2014年3月期 業績見通し

2. 2014年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

2-（1）. 中間期決算ハイライト

1	**経常収益は、8,849百万円（対前年同期 11.5％増）。** **うち、正味収入保険料は、8,716百万円（対前年同期 14.9％増）。** 大型ペットショップを中心にペットショップ代理店で新規契約数が伸長し、一般代理店チャネルでも安定した契約獲得力を維持するとともに、継続契約も高い継続率を堅持。通期では18,216百万円の予想。
2	**損害率は、69.4％（E/Iベース。前年同期は69.5％。0.1pt改善）。** 前年同期比0.1pt改善。90％プラン販売停止や支払割合引上げ時をはじめとする引受審査強化等による損害率低減施策が奏功した結果、中間期の損害率は前年同期を下回って着地。 通期でも前年実績より1.3pt改善し、66.2％となる見込み。
3	**事業費率は、28.1％（前年同期は29.2％。1.1pt改善）。** 業務効率の改善を中心に経費の効率化を継続的に進めた結果、事業費率は前年同期の29.2％から1.1pt改善。引き続き営業経費を強化しつつメリハリある経費コントロールに尽力し効率性を追求。 通期では前年実績より0.4pt改善し、28.1％となる見込み。
4	**経常利益は、300百万円（対前年同期39.7％減）。** 前期は過年度計上分の異常危険準備金戻入益計上という特殊要因があったが、当期（以降）は発生しないため、当中間期ではNet 279百万円の減益要因となり、想定通り前年比減益で着地。 今後は損害率改善のための更なる施策を順次導入・強化することで、通期では710百万円の予想。

2-(2). 2014年3月期中間期　連結業績概況

（百万円）

	13年３月期 中間期	14年３月期 中間期	対前年同期 増減率	13年３月期 （実績）	14年3月期 （予想）	対前年度 増減率
経常収益	7,939	8,849	11.5%	16,186	18,216	12.5%
保険引受収益	7,799	8,716	11.8%	15,781	-	-
（正味収入保険料）	(7,587)	(8,716)	(14.9%)	(15,781)	(-)	(-)
（責任準備金戻入額）	＊ (211)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
資産運用収益	71	50	△29.1%	260	-	-
その他経常収益	69	82	19.0%	143	-	-
経常費用	7,440	8,549	14.9%	15,348	-	-
保険引受費用	5,478	6,456	17.9%	11,450	-	-
（正味支払保険金）	(4,555)	(5,293)	(16.2%)	(9,465)	(-)	(-)
（損害調査費）	(289)	(332)	(14.8%)	(581)	(-)	(-)
（諸手数料及び集金費）	(406)	(507)	(24.9%)	(853)	(-)	(-)
（支払備金繰入額）	(226)	(149)	(△33.9%)	(140)	(-)	(-)
（責任準備金繰入額）	＊ (-)	(172)	(-)	(409)	(-)	(-)
（うち未経過保険料）	(293)	(398)	(36.0%)	(686)	(-)	(-)
（うち異常危険準備金）	(△504)	(△226)	(-)	(△277)	(-)	(-)
資産運用費用	0	18	-	0	-	-
営業費及び一般管理費	1,819	1,978	8.8%	3,632	-	-
その他経常費用	143	95	△32.9%	264	-	-
経常利益	498	300	△39.7%	837	710	△15.2%
中間（当期）純利益	390	186	△52.2%	640	443	△30.8%

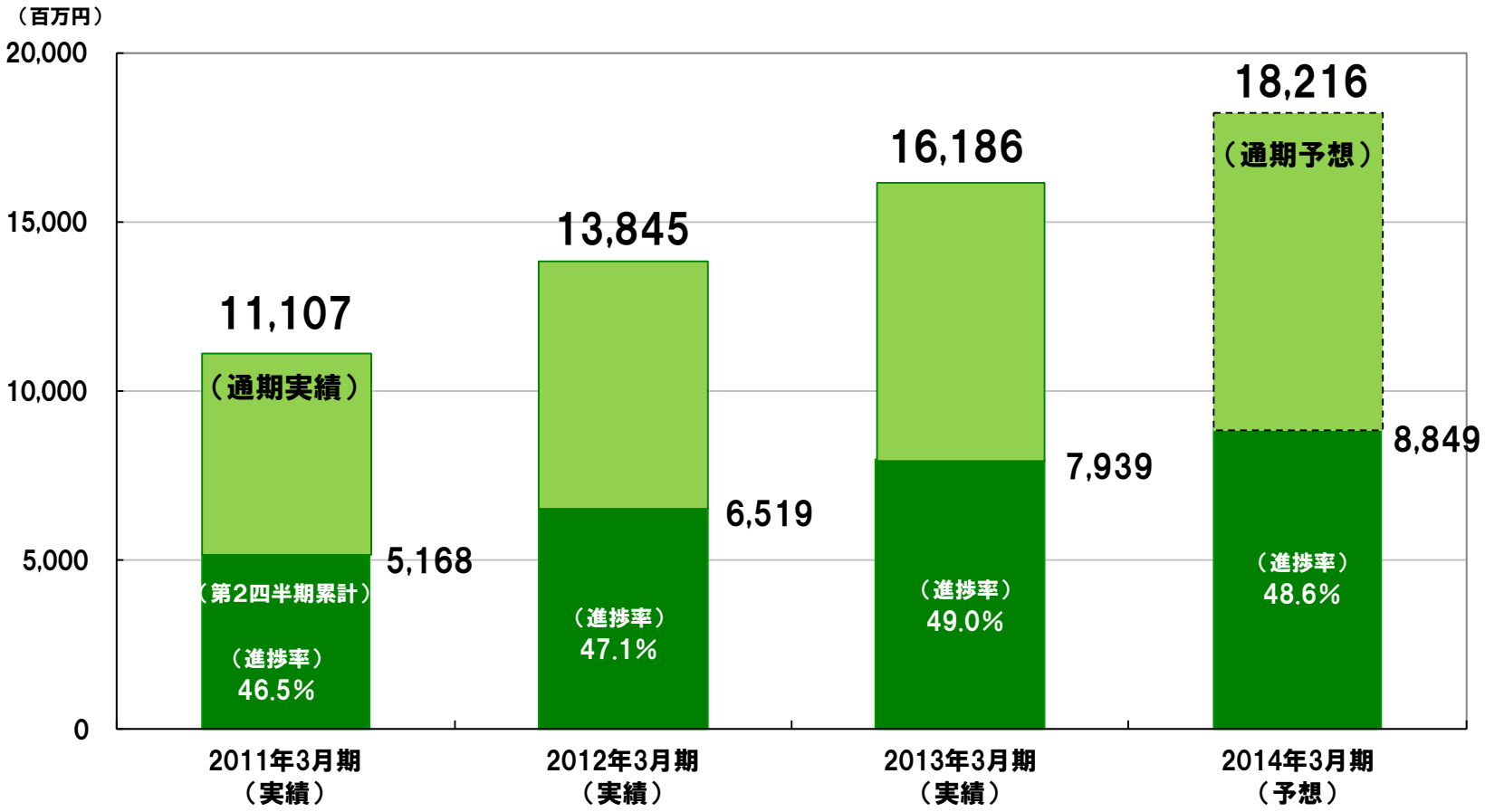
＊ 前中間期においては、異常危険準備金の戻入額（取崩し）が、同繰入額及び普通責任準備金繰入額を211百万円上回ったため、これを責任準備金戻入額として経常収益に加算計上しております

2-（3）. 2014年3月期中間期振り返り

経常収益（保険料収入）	新規契約	ペットショップ代理店	○大型代理店を中心に、新規契約獲得は堅調に推移 ○新規取扱店舗の継続的な開拓 ○継続的な募集コンプライアンス強化
		金融機関・カーディーラー 企業内代理店等	○地銀・信金等のほか、大型金融機関代理店の提携を推進 ○規模の大きな職域代理店との連携強化
	継続契約		○契約者満足度向上施策が奏功し、継続率は引き続き高い水準で安定的に推移 （前年度平均から0.8ptの上昇）
経常費用	保険引受費用 （支払保険金、支払備金・責任準備金繰入額等）		○90%プランの停止や支払割合引上げ時をはじめとする引受審査強化、契約チャネル選別等の施策導入・強化により、損害率は前年同期比で0.9pt改善。ただし一部の施策で効果の発現が遅行 ○保険金支払の促進により異常危険準備金を取崩し
	営業費及び一般管理費		○経費管理の徹底、効率的費消を継続

経常利益	○第2四半期累計では300百万円を計上。 ○年度では710百万円の経常利益を見込む

2-(4). 経常収益の推移(連結)



・新規契約の伸長、高水準での継続契約の獲得により、当中間連結累計期間において8,849百万円(対前年同期.11.5%増)を計上。

・通期では18,216百万円(同12.5%増)を予想。

2-(5). 経営パラメーターの推移(損保単体)

	① 13年3月期 中間期	② 13年3月期末	③ 14年3月期 中間期	③ー① 対前年同期 増減(率)	③-② 対前年度末 増減(率)	14年3月期 (11月6日予想)
保有契約数 (※1)	421,197件	446,414件	477,952件	-	31,538件 (7.1%)	505,020件
新規契約数 (※2)	49,083件	99,504件	56,440件	7,357件 (15.0%)	-	109,679件
平均継続率	87.9%	88.1%	88.9%	-	0.8pt	89.0%
対応動物病院数	5,220病院	5,349病院	5,459病院	-	110病院 (2.1%)	5,591病院

※1 それぞれの期末日現在において保有する契約数

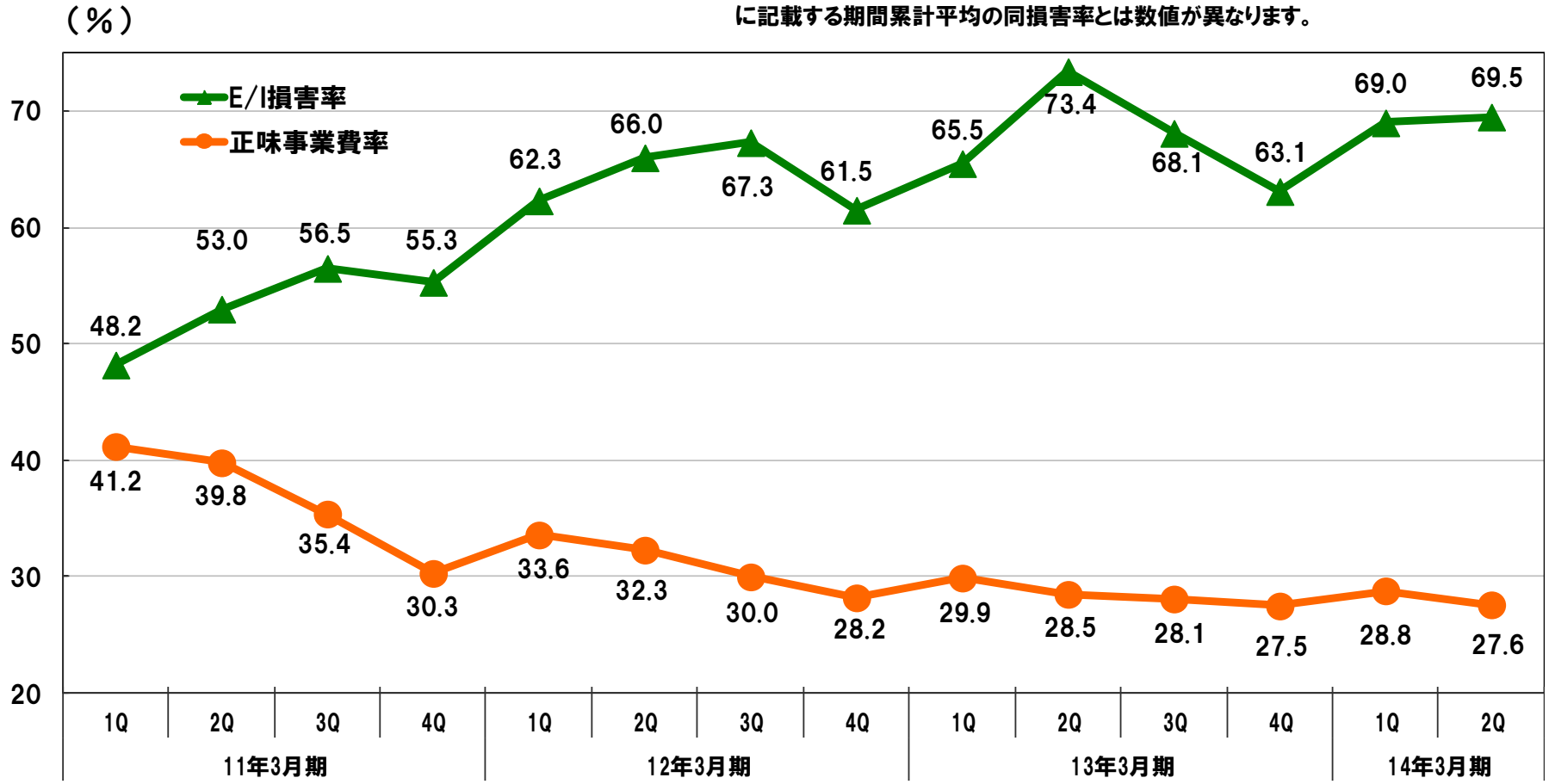
※2 各期4月1日からそれぞれの期末日までに獲得した新たな契約数の累計

3 前期まで開示しておりました「ペットショップ代理店店舗数」「一般代理店店舗数」は、各店舗の規模により一店舗当たりの獲得契約件数が大きく異なることから、それぞれの代理店店舗数と契約数の比例関係に乖離が生じ得るため、両者の開示に替えて登記より新たに「新規契約数」を開示しております。
なお、「ペットショップ代理店店舗数」「一般代理店店舗数」は、引き続き当社のHPにて開示しております。

- 堅調な新規契約と高水準の継続契約が相まって、保有契約数は着実に増加。
- ペットショップ代理店を中心に、前年同期比15.0%増の新規契約を獲得。
- 平均継続率は引き続き高水準で推移し、継続契約を安定的に獲得。
- 新規開業を中心に対応動物病院数が増加し、お客様にとってより一層利便性が向上。

2-（6）. 損害率・正味事業費率の推移（四半期）

注） 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、〔経営指標の推移（損保単体）〕に記載する期間累計平均の同損害率とは数値が異なります。



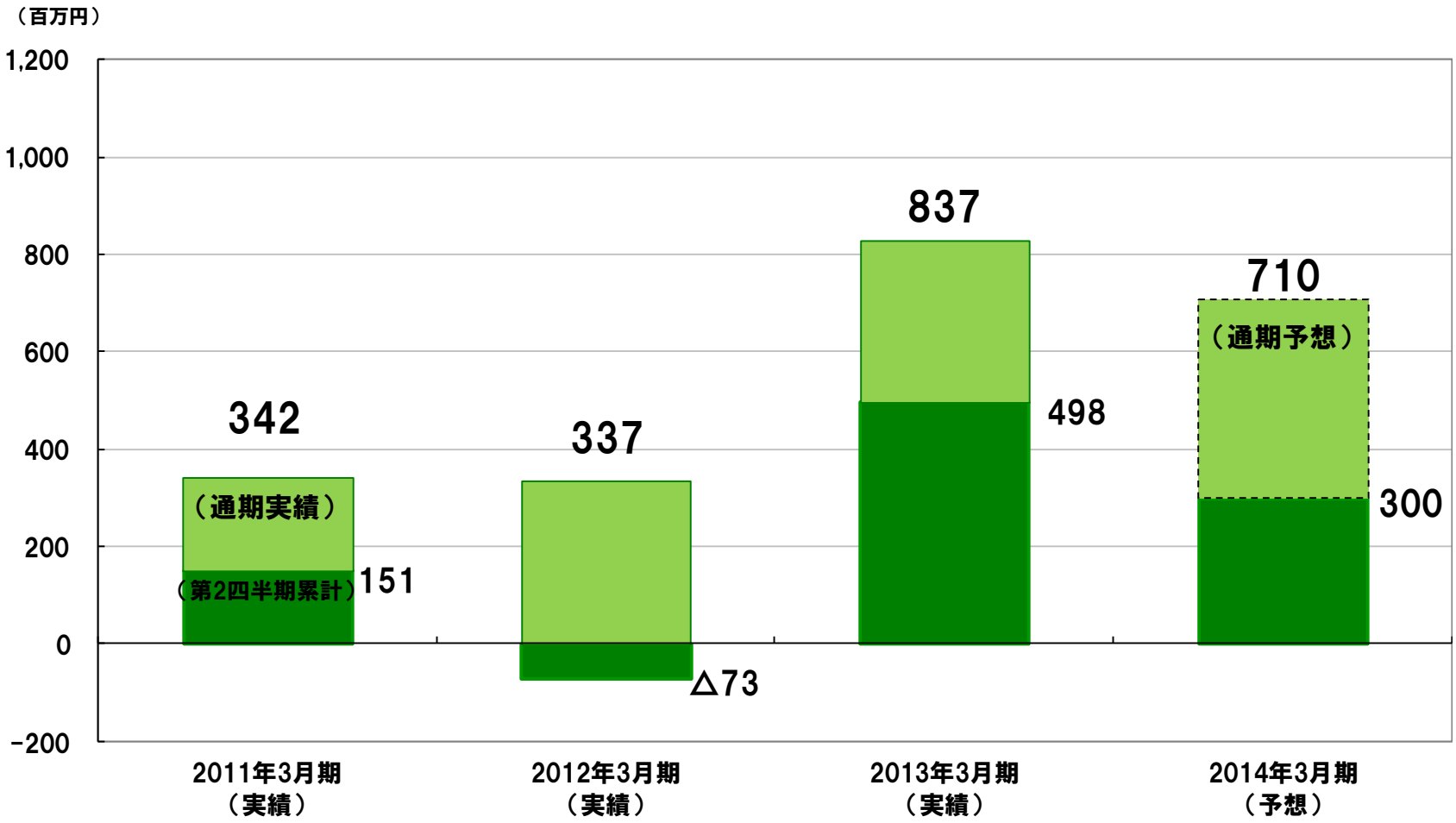
・7月末での90％プラン終了や支払割合引上げ時をはじめとする引受審査強化、契約チャネル選別等の各種施策を導入・強化したことにより、第２四半期は前年同期比で3.9ptの大幅な改善。

・新規契約獲得力強化のために営業コストを重点配分しているが、規模の拡大効果に加え経費管理の徹底、効率化に向けた取り組み等により、正味事業費率は対前年同期比0.9pt改善し、30％を下回る水準で継続推移。

2-(7). 経営指標の推移(損保単体)

	中間期比較		通期比較	
	13年3月期 中間期	14年3月期 中間期	13年3月期	14年3月期 (11月6日予想)
①正味損害率(W/P) (正味支払保険金+損害調査費)/正味収入保険料X100	63.9%	64.5%	63.7%	62.0%
②E/I損害率 (正味支払保険金+支払備金積増額+損害調査費)/既経過保険料X100	69.5%	69.4%	67.5%	66.2%
③正味事業費率 (諸手数料及び集金費+営業費及び一般管理費)/正味収入保険料X100	29.2%	28.1%	28.5%	28.1%
④コンバインド・レシオ(合算率) (正味損害率+正味事業費率=①+③)	93.1%	92.6%	92.2%	90.1%
⑤E/I損害率+正味事業費率 (②+③)	98.7%	97.5%	96.0%	94.3%
単体ソルベンシー・マージン比率	277.0%	290.5%	281.3%	298.1%

2-(8). 経常利益の推移(連結)



・経常利益は、300百万円(対前年同期39.7%減)を計上。通期では710百万円(同15.2%減)を予想。

・前期は、損保開業以来計上していた異常危険準備金を全額取り崩したため783百万円が利益計上されたが、当期は、前期繰入分の505百万円のみが利益計上されるため、前期比で利益を押し下げる特殊要因となった。

2-（9）. 財務状態：貸借対照表（連結）

（百万円）

	13年3月期	14年3月期 中間期	対前期増減率
資産合計	**16,872**	**17,416**	**3.2%**
現金及び預貯金	4,986	5,414	8.6%
有価証券	9,272	9,297	0.3%
有形固定資産	86	97	12.9%
無形固定資産	373	372	△ 0.1%
その他資産	1,940	2,091	7.8%
うち保険業法第113条繰延資産	646	565	△ 12.5%
繰延税金資産	219	154	△ 29.7%
貸倒引当金	△ 7	△ 12	-
負債合計	**9,067**	**9,426**	**4.0%**
保険契約準備金	7,702	8,025	4.2%
うち支払備金	1,142	1,292	13.1%
うち責任準備金	6,560	6,733	2.6%
その他負債	1,292	1,317	2.0%
賞与引当金	69	80	15.3%
価格変動準備金	2	3	44.7%
純資産合計	**7,805**	**7,989**	**2.4%**
株主資本	7,795	8,044	3.2%
うち資本金	4,238	4,269	0.7%
うち資本準備金	4,128	4,159	0.8%
うち利益剰余金	△ 571	△ 384	-
評価・換算差額等	9	△ 54	-
負債・純資産合計	**16,872**	**17,416**	**3.2%**

2-（10）. 財務状況：キャッシュ・フロー計算書（連結）

（百万円）

	13年3月期 中間期	14年3月期 中間期
営業活動によるキャッシュ・フロー	714	702
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,157	△ 535
財務活動によるキャッシュ・フロー	24	61
現金及び現金同等物の増減額	△ 417	228
現金及び現金同等物の期首残高	1,543	1,283
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,126	1,511

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しております。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではございません。

お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社　経営企画部

東京都新宿区下落合1-5-22　アリミノビル　2F

URL：http://www.anicom.co.jp/